

## 23港湾春闘情報(5)

23春闘は第4回中央港湾団交を開催し、組合側は、業側に前回団交の修正回答を求めた。業側の回答は、検数・検定の委員会の開催と放射線被害対策健康診断制度設計を進めるための安全専門委員会の開催などの修正回答だった。

組合側は、賃上げや労働環境整備のための原資を確保すべく荷主に対する要請文の発出について業側は回答しなかったことを追求した。業側は、荷主には元請が責任を持って要請すべきであり、これを飛び超えることは見送ると回答した。

組合側は、検数・検定、専業と特に関連業種においては賃上げに対して非常に厳しい状況であることや地方港での関係を考えれば、荷主に対する要請は行うべきだと反論した。

業側は、団交を解決するために次回団交を4月26日に設定し、その間に4月18日(火)と4月24日(月)に事務折衝をかさねる交渉の方向を提案してきた。組合側は、これを了承して団交を終了した。

4月17日現在の単組のとりくみを下記します。

### 1. 各単組の取り組み状況について(4月17日現在)

#### (1) 全港湾

- ① 3月1日までに要求書の提出とスト権集約を同日までに終えた。第1回回答 指定日を3月14日とし、各地方の集中回答指定ゾーンは3月14~17日とした。要求は、基本給一律30,000円、大幅賃上げを目指す。65歳までの定年延長、労災補償の引き上げ、職種別最低賃金の確立、伝染病の休業補償を求める等11項目を要求。
- ② 4月17日集計では、速報分会153分会中、111分会(72.5%)に有額回答を引き出し、定期昇給回答額平均は、4,446円、ベア回答金額平均は、1,928円、賃金引上げ回答額平均は6,484円。(昨年+1,906円)

#### (2) 日港労連

- ① 2月15日、第1回港荷労使交渉を行った。賃上げ要求は物価高騰をものともしない大幅賃上げとして、基準内月額賃金30,000円。スト権確立2月末に集約。
- ② 4月11日、第1回港荷団交(第4回港荷労使交渉)を行い、以下の内容を基本合意として、各個別追認協議確認のうえ、4月18日に正式妥結に向けた第2回港荷団交を開催することとした。
  - ア. 賃金については、基準内8,000円、基準外月額2,000円(年額24,000円)特に、基準外の取り扱いについては夏季・冬季一時金に対し別途に等分(半期12,000円)上乘せ実績支給。
  - イ. 62歳の定年延長に関する逡減措置是正策について
- ③ 関連交渉は、第一回目を3月2日(木)に行い、要求は、月額3万円。独自課題

として、5.9 協定適用実施、産別協議促進、事前協議の作業体制に関連職種を付記する等。

- ④ 4月3日、第2回関連交渉開催。内部調整中であるとし回答を保留。

### (3) 検数労連

- ① 2月16日に第1回交渉を行い、要求書の提出を行い、回答指定日を3月24日とし、スト権集約は2月20日で確立。要求は、本給一律30,000円。
- ② 4月13日、第7回交渉を行い、日検協会は有額回答を平均6,194円提示。全日検はゼロ回答。次回、4月19日(水)。

### (4) 検定労連

- ① 要求書提出は、3月2日とし、スト権集約は2月末日。賃上げは10%以上の要求とし、要求項目として、あるべき賃金、時間外算定基礎分母の143への引き上げ、定年を65歳にすること。
- ② 検定労連全体として、昨年以上で大筋合意。個別では、シンケンが交渉中。

### (5) 全倉運

- ①  $5\% + \alpha$ を統一要求基準とし、統一要求提出日は3月15日(水)。
- ② 4月17日現在、単純平均31単組 平均7,017円(+1,403円)  
加重平均3565人 平均6,980円(+207円)

### (6) 大港労組

- ① 大幅賃金引き上げの確保。基準内賃金月額30,000円を要求。2月24日(金)に第1回団交を開催し、要求書主旨説明を行った。
- ② 4月14日団交、基準内8,500円。回答を不服として再考を促す。次回、4月28日。

### (7) 全日通

- ① 要求書提出は2月13日(月)、賃金13,700円の増額、一時金年間(夏季・年末合わせて)5ヵ月、生活の維持向上。定昇も含め取り組んだ。
- ② 3月16日妥結。賃金10,550円(税込み/4%)、一時金は年間3.500ヵ月(夏、1.750ヵ月・冬、1.750ヵ月)

以上